

## ミード外相が第二回墨日学長会議開会式に出席

- メキシコから 42 機関、日本から 25 機関の代表が集まり、グアナフアト大学とアグアスカリエンテス自治大学を会場に開催
- 産学連携、イノベーション・システムの発展、世界に通用する人材の育成について検討

今週月曜日、ホセ・アントニオ・ミード・クリブレニャ外相は、墨日学長会議（グアナフアトとアグアスカリエンテスにて開催）の開会式に出席した。

グアナフアト大学講堂で行われた式には、ホセ・カブレラ・シクスト グアナフアト大学学長、アグアスカリエンテス自治大学学長、エンリケ・カブレロ・メンドーサ国家科学技術審議会（CONACYT）長官、エンリケ・フェルナンデス・ファスナハト国立大学高等機関機構（ANUIES）長官、ミゲル・マルケス・マルケス グアナフアト州知事、メキシコ教育省次官らが出席した。また、目賀田周一郎 駐メキシコ日本大使並びに前川喜平文部科学審議官のご臨席も賜った。

開会の辞でミード外相は、メキシコにとって日本は今日、アメリカ、中国、カナダに次いで、世界第四位のビジネスパートナーであり、全分野における最重要なパートナーであること、また、両国の学術、文化、ビジネス各分野での関係強化について語った。

第一回墨日学長会議は、2011年6月、東京大学において、メキシコの16の大学と研究機関及び日本の29の学術機関代表らが参加し行われた。

今回の第二回会議には、メキシコ人学長26人、日本人学長9人、また42のメキシコ高等教育機関、25の日本の高等教育機関、在メキシコ日本大使館、連邦政府（外務省、教育省、国家科学技術審議会、国際開発協力庁）、グアナフアト州、アグアスカリエンテス州、在メキシコの日本企業から代表者が参加する。

2013年並びに2014年は支倉使節団派遣から400周年にあたり、墨日交流年と指定されている。今回の会議はその枠組みで実施されるものであり、高等教育及び協力における戦略科学分野、産学連携、メキシコ日本間のイノベーションシステムの発展、世界に通じる人材の育成、グローバルなテーマへの大学の貢献と異文化理解、交流に結びつく言語能力の強化などのテーマを軸に議論がなされる。

また、今回、CONACYTは、東京大学との間で、日本の大学とは初めてのプログラムとなる大学院生を対象とした奨学金に関する協定及び覚書に署名する。

メキシコと日本は、様々な分野において戦略的パートナーである。日本は、アジアの対メキシコ投資国であり、メキシコからの輸出品のアジア最大の市場である。更に、学術教育及び科学技術協力の分野においては、両国には、学生や教授の交流や学生への奨学金に関する100を超える機関同士の取り決めなど多岐に渡る関係が存在している。